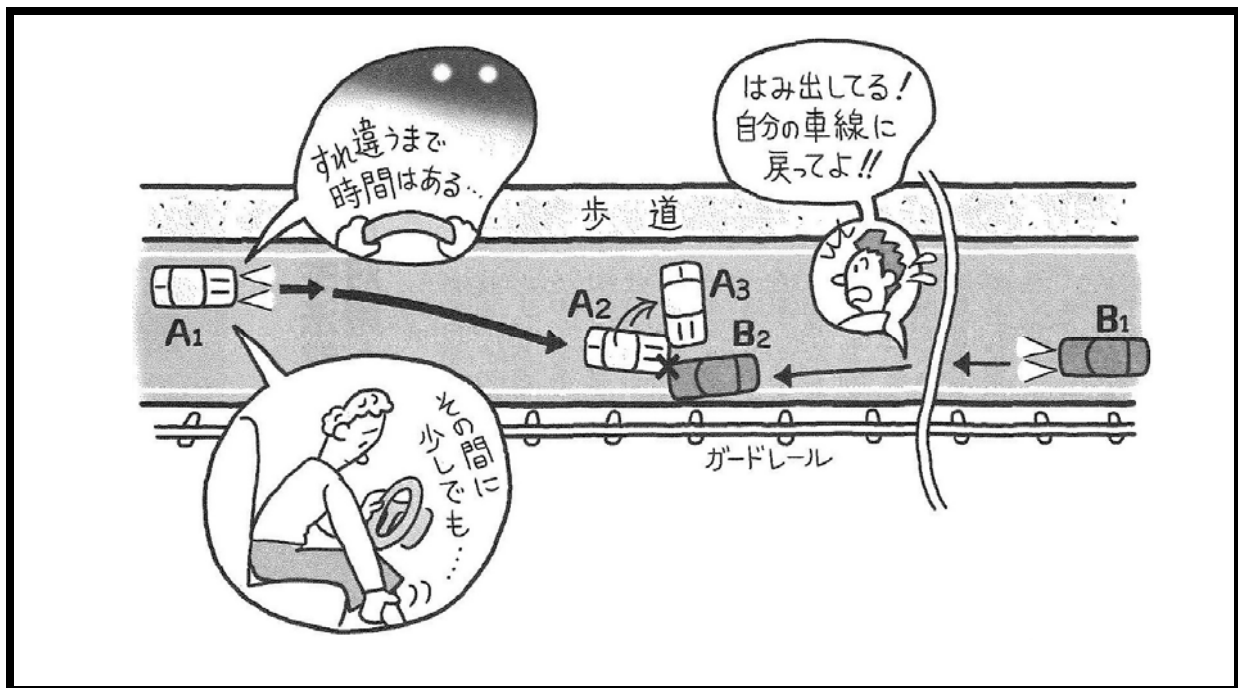


## ■ 事故の概況



事故類型：正面衝突

発生日時：深夜

当事者A：普通乗用車 60歳代 女性

当事者B：普通乗用車 20歳代 男性

## ■ 事故の概要

Aは中央線のない速度制限40kmの直線道路を時速約50kmで走行していました。長時間のドライブでアクセルを踏み続けた右足がとても疲れていたため、道路前方のはるか遠くにB車のヘッドライトの光が見えましたがすれ違うまでには相当時間がかかると判断し、Aは左手でハンドルを握ると視線を下げ右手でふくらはぎを握り少しの間だけ揉んでいました。すると突然大きな衝撃があつて自分の車がB車に衝突していました。

Bは時速60kmの速度でAの対向車線を走行していました。A車が道路中央にはみ出すような状態で走行してきたが、自分ではみ出しに気づいて自分の車線に戻るだろうと思い、念のため減速しました。A車が自車線に戻る気配がないので、クラクションを鳴らし左にハンドルをきったが間に合わず衝突してしまいました。

## ■ 事故から学ぶ

疲れた足を揉みほぐそうと脇見運転をしたことが最大の原因です。

Aは遠方に見えたB車のヘッドライトの大きさや位置で、すれ違うまでの時間を計算していましたが、B車の走行速度を計算に入れていませんでした。ヘッドライトの位置だけを頼りにして距離を目測し、すれ違いの時間を推測するのは非常に難しいことです。

どんな理由があれ、運転中の脇見は厳禁です。脇見をすると、運転者の意識と視線が運転とは関係のない行為に向かってしまいます。どうしても我慢できないときは安全な場所に駐車しましょう。